令和５年度 横浜市学力・学習状況調査の結果について

2023 年 4 月に実施された横浜市学力・学習状況調査の校内分析結果についてお知らせします。年度初めの調査結果をもとにした分析となりますが、これまでの本校での取組内容と関連付けて、子どもたちの伸びを分析しました。特に、学校教育目標「豊かに学び　認め合い　咲かせよう笑顔と満足の花」をもとに、重点取組課題として実施している項目を抜粋して報告させていただきます。

横浜市立小雀小学校 学校教育目標
「豊かに学び 認め合い 咲かせよう笑顔と満足の花」

豊かに学び合える 子どもたちについて

子どもたちが、自らの学習を友達と考えを伝え合い、魅力ある学習を進めることができるように、本校では「伝えることのできる子」の育成を目指し取り組んでいます。まずは、自分の考えをもち、友達と共有する中で伝える目的や手段を選び、自分の考えを伝え合えることを目指しています。これらのことを重点取組課題として捉え、具体的な取組を進めています。

【R4～取り組んできたこと】

「思いや考えを表現する力の育成を目指した国語科の授業づくり」で大切にしてきたこと

伝える内容　伝える方法　伝える目的

結果分析①

2～4 年生

（実態）

国語を学習する意識は高いが、説明的な文章、文学的な文章の内容を捉えることについてはどちらも苦手とする傾向にある。

（今後の取組）

ただ教材を読むだけでなく、読んだことを活かして誰かに伝えたり、自分の考えをまとめたりする学習を設定する。また、ペアやグループ活動を取り入れて、友達と一緒に学習する機会をつくるようにする。

5、6年生

（実態）

情報活用の力がついてきたが、学習する意識は低下傾向にある。

「自分の考えを相手に分かるように伝える」「学習したことを生活の中で使おうとしている」「学級の友達と話し合う活動を通して考えを広げたり深めたりしている」と回答している子が増えた。

（今後の取組）

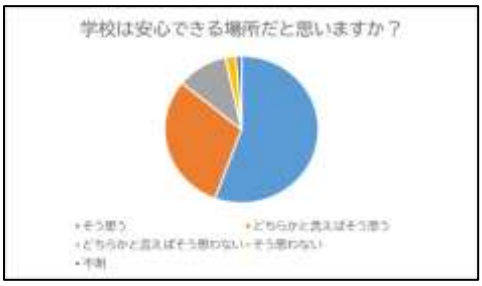
子どもたちにとって魅力的な活動や計画を設定し、文章を読み、書き、話して伝えることの必要感をもてる学習を積み重ねていく。

学習したことが、伝える力につながることを子どもたち自身がさらに実感できるようにする。そのために、本年度、各学年でどのような指導が効果的だったかを次年度に引き継ぐようにする。子どもたちの伝える力の成長につながった部分を今後も広げることを目指す。

認め合いのできる 子どもたちについて

学校生活はもとより、学校行事や各教科学習を中心に、認め合いながら学校生活を送ることができるように、指導をしている。子どもの生活意識の変化について分析した。分析結果について以下の通りです。

結果分析①



本校の人権・特別支援教育テーマ
「知り合う・関わり合う・認め合う」

「学校は安心できる場所だと思いますか。」の質問では、全学年85%以上がそう思う・どちらかといえばそう思うと答えている。これは、「知り合う・関わり合う・認め合う」を意識した各学級での取組の成果が出ているのではないかと考えられる。一方で、15%程度の児童は不安を抱えているため、個別に配慮する必要がある。

小雀小学校の取組との関連から・・・

一人ひとりが安心できるクラスの取組

- 年度初めの学級づくり
- 学級レク・学年レクタイム
- みんなが輝く当番活動・係活動
- 充実した学校行事や仲よし班活動

誰も取り残さない校内の取組

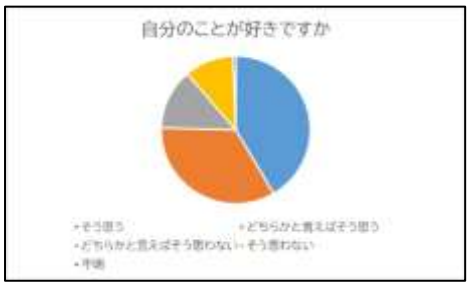
- 定期的な児童アンケート実施
- スマイル相談タイムの実施

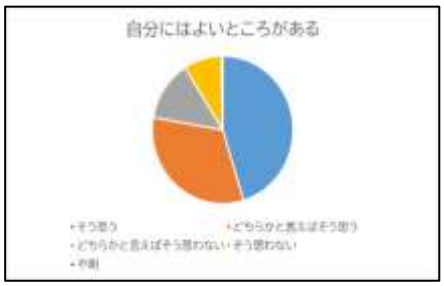
安心して学習に向かうための取組

- 小グループ活動
- 話すときの約束事
- ペア活動
- 聴くときの約束事

これまでの活動から、友だちのよさに気づき、認め、それを伝える機会が学級内や学校全体で増えたことで、一人ひとりが安心できると感じることにつながったのではないかと思われる。一方で、誰一人取り残さないような、学校全体で組織的に対応をしていくべき課題も残っている。今後も校内の取組を続けていく。

結果分析②





「自分のことがすきですか。」「自分にはよいところがあるか。」の質問に対しては、学年によってばらつきがあり、特に高学年は、そう思う・どちらかといえばそう思うと答えた割合が高くはない結果となった。

これまでの2年間、学校行事の縮小や児童会活動の制限などがあった。一人ひとりが活躍できる機会を増やすことや自分を見つめ直す機会を今後は増やしていくようにする。